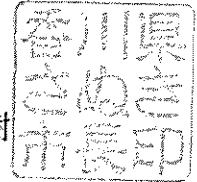


19さ建設第14号
平成19年4月16日

国土交通省道路局長 殿

さぬき市長 大山 茂樹



中期的な計画の作成にあたっての意見について

平成19年4月2日付け国道企第114号で依頼のあったこのことについて、次のとおり提出します。

記

1 重点化を進める上で特に優先度の高い政策

道路整備については、人口の密集した大都市圏に比べ、地方はまだまだ遅れている。地域振興の基盤となる幹線道路網の整備が急がれる。

また、高度経済成長期において整備された道路の拡張、延伸が先行し、歩道設置等交通安全対策が遅延している状況の中、通勤、通学、通院等の日常の暮らしに欠かせない自転車道、歩道等の設置を合わせ持った生活幹線道路の整備が求められている。

あわせて、豪雨、地震等の災害時の早急な緊急物資輸送にも必要な高速道路の早期整備が望まれる。

2 効率化を徹底的に進める上で重視すべきこと

厳しい財政事情の下、道路整備にあたっては、限られた予算で最大限の効果が発揮できることが重要であり、そのためには、道路建設や管理にかかる工法の検討や新技術の活用はもとより、用地補償等のコストを減らし、個々の事業の効果が早く発揮できるよう早期完成を徹底する必要がある。

3 その他、道路政策や道路の整備・管理全般に関する意見

今後の道路政策では、大規模な開発計画が見込めないことから、幹線道路と生活道路を区別しつつ、観光地等へのアクセスを充実し、人と車の共存できる空間の整備が望まれる。

また、増大する一方の道路維持管理コストを補助する仕組みを構築する必要がある。